

4. 參考資料

大学等における学生支援の取組状況に関する調査(令和5年度(2023 年度))

調査票

【回答上の留意点】

- ・ 回答は、回答用ファイル（Excel）に入力し、提出してください。
- ・ 設問に年度の記載がない場合は、令和5年度（2023 年度）中に実施、あるいは実施予定のものについて、回答してください。
- ・ 各設問における取組や実施状況に関し、特に指定がない場合は、一部の学部・学科・研究科等に限って実施している場合についても、実施しているものとして回答してください。
- ・ 対象となる学生は、大学院生、学部・学科の本科生、専攻科生、別科生です。
- ・ 短期大学（部）については、大学に併設されている場合であっても、別に回答してください。

【Ⅰ 学生支援の方針・組織体制等】	P 2 7 2
【Ⅱ キャリア教育・就職支援】	P 2 7 7
【Ⅲ 生活支援】	P 2 8 3
【Ⅳ 課外活動／学生表彰／ピア・サポート／ボランティア活動】	P 2 8 8
【Ⅴ 学生相談】	P 2 9 2
【Ⅵ 成績不振・不登校・中途退学等】	P 2 9 6
【Ⅶ 学生支援に関する学長等の考え】	P 2 9 9
【Ⅷ その他】	P 2 9 9

【I 学生支援の方針・組織体制等】

1 貴校の学生支援の方針についてお答えください。

1-① 貴校が重視している大学等としての機能は、以下のどの項目に該当しますか。「a」～「g」の中から重視している上位3つを選択し、順位（1～3の数字）を入力してください。

※2つ以下でも可。学生支援に限定されることなくご判断・ご回答ください。

大学等としての機能	重視している機能 上位3つに順位（1～3）を入力
a 世界的研究・教育拠点	
b 高度専門職業人養成	
c 幅広い職業人養成	
d 総合的教養教育	
e 特定の専門的分野（芸術、体育等）の教育・研究	
f 地域の生涯学習機会の拠点	
g 社会貢献機能（地域貢献、産学官連携、国際交流等）	

[我が国の高等教育の将来像（答申）平成17年による分類]

1-② 学生支援のための全学的な方針について、該当するすべての項目に○をつけてください。また、ホームページ等で公表している場合は URL を入力し、公表していない場合には、「-」を入力してください。

a 学生支援全般についての全学的な方針を定めている

[URL :]

b キャリア形成支援についての全学的な方針を定めている

[URL :]

c 学生の生活支援（事件事故防止等に関するもの、学生寮・食堂等の施設の運営などに関するもの）についての全学的な方針を定めている

[URL :]

d 性的マイノリティ（LGBTQ、SOGI 等）への対応についての全学的な方針を定めている

[URL :]

e その他学生支援に係る特定のテーマについての全学的な方針を定めている

[テーマ名 : ()]

[URL :]

2 学生支援に関する組織等についてお答えください。

2-① 貴校においては、どのような支援内容を所掌する「学生支援に関する組織」を設置していますか。

該当するすべての項目に○をつけてください。

※学校の組織図にある組織について、お答えください。

※委員会組織は対象外とします。

【所掌する支援内容】

- a 修学支援に関するもの[教務・学習関係]
- b キャリア教育に関するもの
- c 就職支援に関するもの
- d 対人関係、心理・性格の相談に関するもの
- e メンタルヘルスの支援に関するもの
- f 障害のある学生への支援に関するもの
- g 生活支援に関するもの[事件事故防止に関する指導、学生寮・食堂等の施設の運営など]
- h 経済的支援に関するもの
- i 留学生への支援に関するもの[外国人留学生への支援、日本人学生の海外留学への支援]
- j 課外活動支援に関するもの[部・サークル活動等]
- k その他（具体的に： ）

2-② 学生の抱える課題に対して、包括的に対応することを目的とする領域横断的かつ恒常的な組織（学生支援センターなど）を設置していますか。該当する項目を1つ選択してください。

「a」を選択した場合には、「組織が所掌する支援内容」、「組織の長」についても入力してください。

- a 設置している
- b 設置していない

「a」を選択した場合にお答えください。

組織が所掌する支援内容（複数選択可）	組織の長（１つ選択）
下から選択	下から選択

支援内容：

- | | | | |
|---|---------------------|----|-----------------------------|
| 1 | 修学支援に関するもの | 7 | 生活支援に関するもの |
| 2 | キャリア教育に関するもの | 8 | 経済的支援に関するもの |
| 3 | 就職支援に関するもの | 9 | 留学生への支援に関するもの |
| 4 | 対人関係、心理・性格の相談に関するもの | | 〔外国人留学生への支援、日本人学生の海外留学への支援〕 |
| 5 | メンタルヘルスの支援に関するもの | 10 | 課外活動支援に関するもの |
| 6 | 障害のある学生への支援に関するもの | 11 | その他（具体的に： ） |

組織の長：

- ア 学長、学生担当副学長、学長補佐など イ 学生支援担当の教員
ウ 学生支援担当の職員 エ その他（ ）

2-③ 一定の専門的知識や技能を以って学生支援に従事することを主たる職務とする、専門的なスタッフを配置していますか。該当する項目を1つ選択してください。

「a」を選択した場合には、配置しているスタッフの詳細についても入力してください。

※ここでは、◎就職支援、学生相談に関するスタッフ以外で、該当するものをお答えください。

(◎は後にそれぞれの設問があるため)

- a 配置している
- b 配置していない

「a」を選択した場合にお答えください。

入力例	職名※	課している資格 (あれば)		職種 (教員/職員/その他)		常勤/非常勤		任期 (あり/なし)	
		支 援 領 域							
		1	2	3	4	5	6	7	8
	学生支援コーディネーター	社会福祉士		職員		常勤		なし	
					○	○			

支援領域：

1 修学支援に関するもの	6 留学生への支援に関するもの
2 キャリア教育に関するもの	[外国人留学生への支援、日本人学生の海外留学への支援]
3 障害のある学生への支援に関するもの	7 課外活動支援に関するもの
4 生活支援に関するもの	8 その他(具体的に：)
5 経済的支援に関するもの	

※職名がない場合、教員の場合には「教授」「特任教授」などの職位を入力してください。また、職員の場合には、職種と重複して構いませんので、「事務職員」などを入力してください。

2-④ 学生支援領域に関する教職員の能力開発に関して、貴校ではどのような取組を実施していますか。該当するすべての項目に○をつけてください。

※ここでは、◎就職支援、学生相談以外で、該当するすべての項目に○をつけてください。

(◎は後にそれぞれの設問があるため)

- a 人事考課制度や目標管理制度を導入し、人事と結びつけた能力開発を実施している
- b 学内での研修会を実施している
- c 学外での研修会に教職員を大学等の業務として派遣している
- d 学外での研修会への教職員の自主的な参加を推奨している
- e 一定の業務に携わる場合には、大学等として各種資格の取得を義務付けている
- f 一定の業務に携わる場合には、大学等として各種資格の取得を推奨している
- g その他(具体的に：)

3 学生支援の効果の評価についてお答えください。

3-① 学生支援の効果測定するための評価を行っていますか。該当する項目を1つ選択してください。

- a はい
- b いいえ

3-② 3-①で「a」を選択した場合、そのための指標として何を使っていますか。該当するすべての項目に○をつけてください。

- a 成績
- b 授業の出席率
- c 中途退学率
- d 学生アンケート
- e 学生相談の件数
- f 就職率
- g 入学志願者数
- h その他（具体的に： ）

4 「新型コロナウイルス感染症の流行に対応した特別な学生支援（※）」（以下、「特別な学生支援」という。）についてお答えください。

4-① 令和4年度以降、大学等全体として実施した「特別な学生支援」について、時期ごとに実施したすべての支援領域に○をつけてください。

※ 「特別な学生支援」の例として、以下の取組が考えられます。

オンラインでの各種支援の提供、奨学金の新設等、感染拡大防止のための生活指導、新入生の大学への適応のためのピア・サポートの充実、入国できない留学生に対する支援

これらの例以外でも、新型コロナウイルス感染症の流行に対応するため、従来提供してきた支援の内容や方法
に特別な変更を加えて実施した取組があれば、該当するものとしてお答えください。

支援領域	時期ごとの実施状況	
	令和4年4月 ～令和5年3月	令和5年4月 ～令和5年9月
a 修学支援〔教務・学習関係〕に関するもの		
b キャリア教育に関するもの		
c 就職支援に関するもの		
d 対人関係、心理・性格の相談に関するもの		
e メンタルヘルスの支援に関するもの		
f 障害のある学生への支援に関するもの		
g 生活支援に関するもの〔事件事故防止に関する指導、施設等への支援など〕		
h 経済的支援に関するもの		
i 留学生への支援に関するもの〔入国済み・入国できない外国人留学生への支援、日本人学生の海外留学・帰国への支援等〕		
j 課外活動支援に関するもの〔部・サークル活動等〕		
k 学生同士の交流を促進・支援するもの		
l その他（ ）		

※ パソコンやWi-Fi 機器の貸与は「a 修学支援〔教務・学習関係〕に関するもの」に該当するものとしてお答えください。

- 4－② 実施した「特別な学生支援」のうち、特に成果があった取組があれば、その概要を以下の欄に入力してください。なお、「支援領域」欄には、4－①で該当する支援領域のアルファベットを入力してください。

※ 終了している取組については、支援開始時期の欄に終了時期もお答えください。

名称・内容	支援領域	対象	支援開始時期 (～終了時期)
例) 名称：〇〇奨学金 内容：家計が急変した学生に対する独自の給付奨学金。日本学生支援機構による家計急変採用の給付奨学金ではカバーできない学生に対して給付を行う。	h	全学生 (家計が急変した者に限る)	2022 年 4 月
例) 名称：オンラインでのピア・サポート 内容：新入生や留学生の適応を促すため、4～5人に上級生1人を相談相手として配置。オンラインで仲間づくりのプログラムを実施。	a, d, g, i	新入生, 留学生	2022 年 6 月～ 2023 年 3 月
名称： 内容：			
名称： 内容：			

- 4－③ 令和4年度以降、「特別な学生支援」を実施するにあたり特に課題となったことがあれば、その概要を以下の欄に入力してください。なお、「支援領域」欄には、4－①で該当する支援領域のアルファベットを入力してください。

支援領域	課題となったこと

【Ⅱ キャリア教育・就職支援】

5 貴校におけるキャリア教育についてお答えください。

5-① 貴校が必修科目として設定した、キャリア教育の科目の開設状況について、該当する項目を1つ選択してください。

- a 全学で開設している
- b 学部あるいは学科単位で開設している
- c 開設していない

5-② 5-①において「a」又は「b」を選択した場合、授業担当者（成績評価に一定の責任を持つ者）について、該当するすべての項目に○をつけてください。

- a 専任教員（大学院・学部等所属）
- b 専任教員（大学院・学部等所属以外）
- c 特定有期雇用教員（特任教員等）
- d （学内非常勤講師としての発令を受けている）職員
- e （大学等教員を本業とする）非常勤講師
- f （大学等教員を本業とする者以外の）非常勤講師
- g その他（ ）

5-③ 5-①において「a」又は「b」を選択した場合、授業担当者（成績評価に一定の責任を持つ者）の指導の下、授業の一部を担当する方がいる場合には、該当するすべての項目に○をつけてください。

- a 職員
- b 就職支援関連の民間企業（就職支援情報企業など）の社員
- c 一般の民間企業の社員
- d 地域の経済団体（商工会議所、経営者協会など）の構成員
- e 地方公共団体の職員
- f 公益法人、NPO等の職員
- g その他（ ）

5-④ 「学生のキャリア形成支援に係る産学協働の取組み」の「タイプ3」に該当するインターンシップについて伺います。（「タイプ3」のインターンシップについてはQ&AのQ19をご参照ください。）

（1）貴校において、実施していますか（※）。該当するすべての項目に○をつけてください。

- a すべての学部、学科、研究科等において科目を開設して実施している
- b 一部の学部、学科、研究科等において科目を開設して実施している
- c 正課外で実施している
- d 実施していない

※ 学校が窓口となって組織としてインターンシップを紹介・あっせんする、あるいは学校が企業等とともにプログラムを開発して学生を募集するなど、学校等を通じて対応しているもの（学生の参加状況を学校が把握し関与しているもの）を対象とし、学生が各自で企業等に連絡を取って申し込むものは対象としません。

- (2) (1)において「a」～「c」のいずれかを選択した場合、インターンシップの担当者はどなたですか。該当するすべての項目に○をつけてください。
- a 教員（常勤）
 - b 教員（非常勤）
 - c 職員（常勤）
 - d 職員（非常勤）
 - e その他（ ）
- (3) (1)において「a」～「c」のいずれかを選択した場合、担当者の中にインターンシップに関する研修等を受けた方はいますか。該当するすべての項目に○をつけてください。
- a JASSOのインターンシップのセミナーを受講した者
 - b JASSO以外のインターンシップの研修会、セミナーを受講した者
 - c その他（具体的に： ）
 - d インターンシップに関する研修等を受けたものはいない
- (4) (1)において「a」～「c」のいずれかを選択した場合、以下のうち実施している項目及び実施の有無にかかわらず課題となっているものはありますか。該当するすべての項目に○をつけてください。

項 目	実 施	課 題
a 受入企業等の開拓		
b 学生と受入企業等とのマッチング		
c 学生への事前指導・事後指導		
d 企業等と協働のプログラム構築		
e カリキュラム全体との整合性		
f 学内調整		
g 地域社会との連携		
h 受入企業等への還元		
i その他（具体的に： ）		

- (5) (1)において「d」を選択した場合、実施していない理由は何ですか。該当するすべての項目に○をつけてください。
- a 組織的な理由（人員・体制不足）
 - b 受入企業等の確保が難しい
 - c プログラム構築が難しい／ノウハウが不足している
 - d 学生の学業に差し支える（カリキュラムが過密）
 - e 「インターンシップ（という活動）」に必要性を感じない
 - f 「インターンシップ科目を大学等で開設すること」に必要性を感じない
 - g その他（具体的に： ）

5-⑤ 博士後期課程を設置している学校のみお答えください。

「学生のキャリア形成支援に係る産学協働の取組み」の「タイプ4」のうち「ジョブ型研究インターンシップ」について伺います。（「ジョブ型研究インターンシップ」についてはQ & AのQ21をご参照ください。）

(1) 貴校において、実施していますか。該当する項目を1つ選択してください。

- a ジョブ型研究インターンシップ推進協議会（以下、「協議会」という。）に参画しており、ジョブ型研究インターンシップの実施実績（※）がある
- b 協議会に参画しているものの、ジョブ型研究インターンシップの実施実績はない
- c 協議会に参画していない

※ここでいう実施実績は、マッチングが成立して貴校の学生がジョブ型研究インターンシップに参加したことを指します。

(2) (1)において「c」を選択した場合、その理由は何ですか。該当するすべての項目に○をつけてください。

- a 組織的な理由（人員・体制不足）
- b プログラム構築が難しい／ノウハウが不足している
- c 学生の学業に差し支える（カリキュラムが過密、研究活動に支障がある）
- d 博士後期課程において「インターンシップ（という活動）を実施する」必要性を感じない
- e 博士後期課程において「ジョブ型研究インターンシップを実施する」必要性を感じない
- f その他（具体的に：_____）

5-⑥ キャリア教育を実施する上で、課題となっていることがありましたら、該当するすべての項目に
○をつけてください。

- a 学生のキャリア意識の低さ
- b 学生の基礎学力の低さ
- c 低学年次からの指導の拡大
- d インターンシップへの対応
- e インターンシップ専門人材の育成・配置
- f 民間事業者、地域の経済団体、NPO等との連携
- g キャリア教育に対する教員の理解
- h キャリア教育に対する職員の理解
- i キャリア教育と就職支援の一体的な企画・運用
- j キャリア教育とカリキュラムの関係性
- k キャリア教育の体系的性
- l その他（具体的に： ）

6 貴校における就職支援についてお答えください。

6-① 就職支援の担当者はどなたですか。該当するすべての項目に○をつけてください。

- a 教員（常勤）
b 教員（非常勤）
c 職員（常勤）
d 職員（非常勤）
e その他（ ）
f いない

6-② 就職支援の担当者の中に有資格者や就職支援に関する研修等を受けた方はいますか。該当するすべての項目に○をつけてください。

- a キャリアコンサルタント等の資格を取得した者
b キャリア・就職関係の研修会、ワークショップを受講した者
c その他（具体的に： ）
d 有資格者や就職支援に関する研修等を受けた者はいない

6-③ 就職支援の担当者として学外からどのような人材を採用・配置していますか。該当するすべての項目に○をつけてください。

- a 企業等の人事担当経験者を採用・配置している
- b 就職支援関連企業等の経験者を採用・配置している
- c 卒業生を採用・配置している
- d その他（ ）
- e 学外からの人材は採用・配置していない

6－④ 就職支援に関する教職員の能力開発に関して、貴校ではどのような取組を実施していますか。該当するすべての項目に○をつけてください。

- a 人事考課制度や目標管理制度を導入し、人事と結びつけた能力開発を実施している
- b 学内での研修会を実施している
- c 学外での研修会に教職員を大学等の業務として派遣している
- d 学外での研修会への教職員の自主的な参加を推奨している
- e 大学等として各種資格の取得を義務付けている
- f 大学等として各種資格の取得を推奨している
- g その他（具体的に： ）

6-⑤ 一部の学生に特化した就職支援として、貴校ではどのような取組を実施していますか。該当する
すべての項目に○をつけてください。

- a 成績優秀な学生に対する支援
- b 就職意欲の高い学生に対する支援
- c 就職意欲の低い学生に対する支援
- d 障害のある学生に対する支援
- e 留学生に対する支援
- f 海外の企業等への就職を希望する学生に対する支援
- g Uターン就職を希望する学生に対する支援
- h 未内定学生に対する支援
- i 内定後に困難や悩みを抱えている学生に対する支援
- j その他（具体的に： ）
- k 特に実施していない

7 進路等を把握するための現況調査について、令和4年度（2022年度）の実施状況をお答えください。

7-① 卒業年次の学生全員に対する調査を実施していますか。該当する項目を1つ選択してください。

- a 実施している
- b 実施していない

7-② 7-①で「a」を選択した場合、調査を「進路状況の把握」以外に活用されていますか。該当するすべての項目に○をつけてください。

- a 進路未決定の学生に対する指導・支援
b 次年度以降に卒業する学生に対する指導・支援
c キャリア教育や就職支援の成果の検証
d その他（具体的に： ）
e 「進路状況の把握」以外に特に活用はしていない

7-③ 卒業生の現況調査を実施していますか。該当する項目を1つ選択してください。

- a 全学で実施している
- b 学部あるいは学科単位で実施している
- c 全学で対象を抽出して実施している
- d 学部あるいは学科単位で対象を抽出して実施している
- e 実施していない

7-④ 7-③で「a」～「d」のいずれかを選択した場合、調査を「現況の把握」以外に活用されていますか。該当するすべての項目に○をつけてください。

- a 未就職者や離職者に対する支援
- b 卒業年次の学生に対する指導・支援
- c 次年度以降に卒業する学生に対する指導・支援
- d その他（具体的に： ）
- e 「現況の把握」以外に特に活用はしていない

【Ⅲ 生活支援】

- 8 学生が関わる事件・事故の防止等に関する学生への指導・啓発について、どのような取組を実施しているかお答えください。

8-① 下表の事項1～19について、取組項目「a」～「h」のうち実施しているすべてに○をつけてください。また、現在、特に対応が困難な事項の上位3つを選択し、○をつけてください。

事項	a ガイ ダンス	b 授業 (初年次)	c 授業 (初年次 を除く)	d 学内 広報物 による 周知	e ホーム ページ に掲載	f 啓発的 な講演 会等の 開催	g 教職員 に対す る研修	h その他 の取組 (SNSの 活用等)	現在、特 に対応が 困難なも の(上位 3つに○ をつけ る)
1 薬物乱用防止に関すること(※1)									
2 飲酒問題に関すること									
3 喫煙問題に関すること									
4 ギャンブル等依存症に関する こと(※2)									
5 消費者問題に関すること									
6 アルバイト問題に関すること									
7 年金問題に関すること									
8 カルトに関すること									
9 SNS等の利用に関すること									
10 マナー・モラルに関すること									
11 ハラスメント防止に関すること									
12 デートDV防止に関すること									
13 性犯罪の加害防止・被害予防に 関すること									
14 性的マイノリティ(LGBTQ、 SOGI等)の理解増進に関する こと									
15 メンタルヘルスに関すること									
16 身体の健康管理に関すること									
17 通学上の安全に関すること									
18 海外渡航時の安全確認に関する こと									
19 その他(具体的に：)									

※1 薬物乱用とは、医療品を医療目的からはずれて使用すること、医療目的に使われない薬物を不正に使用することを意味します。

※2 ギャンブル等依存症とは、ギャンブル等(法律の定めるところにより行われる公営競技、ぱちんこ屋に係る遊技その他の射幸行為)にのめり込むことにより日常生活又は社会生活に支障が生じている状態を意味します。

- 8-② 8-①で「h」に○をつけた場合にお答えください。8-①の表から、事項（1～19）を選択し、貴校の特色があると思われる取組をなるべく具体的にお答えください。

事項 (1～19を入力)	特色ある取組を具体的に入力してください

- 9 学生生活に関する施設の設置状況についてお答えください。

- 9-① 下表の「a」～「j」の施設について、設置しているすべての施設に○をつけてください。

施設名	設置している (○を入力)
a 保健管理施設	
b 課外活動施設（サークル施設など）	
c 食堂・喫茶	
d 学生プラザ・フリースペース	
e 託児所（学生の子どもを受入れ対象とする）	
f 学生団体のための部屋	
g 学生寮（寄宿舎）	
h 障害のある学生の休息室等	
i 誰でもトイレ／バリアフリートイレ	
j その他（ ）	

- 9-② 9-①の「a」～「j」の施設の利用に関して、特に工夫していることがあれば、なるべく具体的にお答えください。

施設 (a～jを入力)	工夫している内容を具体的に入力してください 例) ○食堂に一人席やスピード席を設置している。地産地消メニュー、ハラル食を提供している。 ○英語や異文化に接することができる国際交流ラウンジを設置している。

- a 学生の経済的問題への配慮
- b 快適な生活環境の提供
- c 遠方からの学生の確保
- d 外国人留学生の確保
- e 大学等への帰属意識の醸成
- f 共同生活を通じた規律意識の醸成
- g コミュニケーション能力の向上
- h 問題解決能力の修得
- i リーダーシップの修得
- j 正課の学修成果の向上
- k 日本人学生と外国人留学生との共同生活による異文化理解・外国語能力の向上
- l その他（具体的に： ）

(1) 今後（令和6年度（2024年度）以降）の、学生寮の予定について、該当する項目を1つ選択してください。

a 新築又は増築する予定

b 縮小する予定

c 廃止する予定

d 新築・増築・改廃の予定なし

(3) 学生寮の運営形態(※)について、該当するすべての項目に○をつけてください。

a 学校による直接運営	※学生寮の運営形態： 学校による直接運営とは、大学等が直接的に管理する形態です。運営を外部に委託する形態は、大学の管理・運営業務を民間業者等に委託する形態です。
b 運営を外部に委託	
c 学生による自治	
d その他(具体的に：)	

- 285 -

- (4) 学生寮の入居学生について、該当する項目に○をつけてください。学生寮が複数ある場合で学生寮によって異なる場合も、該当するすべての項目に○をつけてください。

a 日本人学生のみ
b 外国人留学生のみ
c 日本人学生と外国人留学生（混住型）

(5) 令和5年（2023年）9月1日現在の定員及び入居者数について入力してください。学生寮が複数ある場合は、学生寮全体の入居状況を入力してください。

定員〔（ ）名〕、うち外国人留学生〔（ ）名 / 定めていない〕
入居者数〔（ ）名〕、うち外国人留学生〔（ ）名〕

(6) 寮費（月額）（※）について、該当する項目を1つ選択してください。寮費（月額）が複数設定されている場合は、該当するすべての項目に○をつけてください。

a 0円～5千円
b 5千円超～1万円
c 1万円超～2万円
d 2万円超～3万円
e 3万円超～4万円
f 4万円超～5万円
g 5万円超～6万円
h 6万円超～7万円
i 7万円超～8万円
j 8万円超～

※・年額の場合は、月額に換算した金額を選択してください。
・食費や光熱費は含まない金額を選択してください。
含まれている場合は、相応分を差し引いた概算の金額を選択してください。
・入寮費や保証金、管理費等は含めません。

(7) 設置している学生寮の付帯施設（※）について、該当するすべての項目に○をつけてください。

a 独立した談話室（スペース）
b 図書室
c 学習室
d フィットネスルーム
e コート・運動場等
f 音楽室等
g カウンセリングルーム
h 保健室・医務室
i バリアフリーの居室、洗面所等
j 誰でもトイレ／バリアフリートイレ
k 食堂・喫茶室
l 共用キッチン
m 共同浴場（シャワールーム）
n 洗濯室
o その他（具体的に：（ ））

※学生寮の付帯施設：
学生寮に付属する設備・施設であって、寮生が使用することのできるものを指します。寮生が共同生活において使用する設備・施設、学習活動等で利用する設備・施設、バリアフリーの設備・施設等、寮生の寮生活に関わる設備・施設を意味しています。

(8) 過去2年(令和3年度(2021年度)・令和4年度(2022年度))の入居希望者数の傾向について、該当する項目を1つ選択してください。

- a 増加傾向
- b 横ばい
- c 減少傾向
- d 把握していない

(9) 学生寮に関して、課題となっていることがありましたら、なるべく具体的にお答えください。
()

10 性的マイノリティ(LGBTQ、SOGI等)への対応について、学内で実施しているすべての項目に○をつけてください。

※対応実績がない場合でも、対応方法がマニュアル等で定められている項目には、○をつけてください。

- a 対外的に性別の記載の必要があるものを除き、できる限り性別は無記載にする
- b 名簿等において、自認する性に基づく通称名を使用する
- c 授業や窓口対応における呼称は、当事者の要望に沿ったものを使用する
- d 誰でもトイレ/バリアフリースイールの利用を案内する
- e 体育実技や課外活動等において、専用ウェアへの着替えが必要など、男女別要素がある場合には、履修登録前などに十分な事前アナウンスを行う
- f 更衣室の使用について、個別対応を行う
- g 健康診断の受診においては、個別対応や他学生がいない時間帯を行う
- h その他(具体的に:)

11 学生生活支援(学生が関わる事件・事故の防止等に関する学生への指導・啓発、学生生活に関する施設の設置等)に関して、課題となっていることがありましたら、該当するすべての項目に○をつけてください。

- a 施設の管理運営
- b 施設の不足
- c 学生への情報伝達・啓発
- d 留学生に関する事[外国人留学生への支援、日本人学生の海外留学への支援]
- e 障害のある学生に関する事
- f 教職員や学生の性的指向・性自認の多様な在り方の理解に関する事
- g 学生の防犯意識に関する事
- h 学生支援のための組織・人員体制に関する事
- i 教職員の理解不足
- j 経済的問題に関する事
- k 地域・周辺住民に関する事
- l その他(具体的に:)

【Ⅳ 課外活動／学生表彰／ピア・サポート／ボランティア活動】

- 12** 貴校として公認している課外活動団体（クラブ、サークル、同好会等。以下「公認サークル」という。）の、団体数と加入人数を入力してください。

※ 同一法人内の大学・短大につきましては、可能であれば、それぞれの団体数・加入人数をそれぞれの回答用ファイルに入力してください。

※ 把握していない場合には、「－」を入力してください。

文化系 〔団体数：（ ）団体〕 〔加入人数：（ ）人〕

体育系 〔団体数：（ ）団体〕 〔加入人数：（ ）人〕

- 13** 公認サークルに対して貴校として支援している内容について、該当するすべての項目に○をつけてください。なお、支援していない場合は、「n 支援していない」に○をつけてください。

- a 施設・物品の供与及び貸与
- b 施設・設備の整備
- c 経費の補助（後援会からの経費の支援は含まない）
- d リーダー養成セミナーの実施
- e 専属指導者（コーチ等）の招聘・費用負担
- f オリエンテーション等で公認サークル活動への参加を推奨
- g 公認サークル活動を通じて地域に貢献
- h 事故防止のためのガイダンス、説明会、研修会の実施
- i 事故に対応する保険の加入指導
- j 危機管理ガイドラインの制定
- k 体育系サークルの試合結果などを学内広報、応援参加を推奨
- l 文化系サークルの発表活動などを支援
- m その他（具体的に： ）
- n 支援していない

- 14** 学生表彰の対象としている活動について、該当するすべての項目に○をつけてください。なお、実施していない場合は、「h 実施していない」に○をつけてください。

- a 課外活動（サークル活動、スポーツ、文化芸術、学術等）
- b 社会奉仕活動（ボランティア活動、人命救助等）
- c 国際交流活動
- d 自主研究活動
- e 成績優秀者に対する表彰（学長賞など）
- f 成績優秀者に対する奨学金の給付・授業料免除
- g その他（具体的に： ）
- h 実施していない

15 ピア・サポート（※）等、学生同士で支援する制度の実施状況についてお答えください。

※ピア・サポート：学生生活上で支援（援助）を必要としている学生に対し、仲間である学生同士で気軽に相談に応じ、手助けを行う制度。

15-① ピア・サポート等、学生同士で支援する制度の実施状況について、該当する項目を1つ選択してください。

- a 実施している
- b 実施していない

15-② 15-①で「a」を選択した場合、実施しているピア・サポート活動数（プログラム数）を、入力してください。

<支援領域>

- a 授業内での学習サポート：プログラム数（ ）
- b 授業外での学習サポート：プログラム数（ ）
- c 修学相談（履修相談等）：プログラム数（ ）
- d 就職アドバイス：プログラム数（ ）
- e 学生寮（寄宿舍）内の生活支援（レジデント・アシスタント等）：プログラム数（ ）
- f 障害のある学生への支援：プログラム数（ ）
- g 留学生支援〔外国人留学生への支援、日本人学生の海外留学への支援〕：プログラム数（ ）
- h 学生生活上の支援（障害学生支援・留学生支援を除く）：プログラム数（ ）
- i 学生間の仲間づくり：プログラム数（ ）
- j その他（具体的に： ）：プログラム数（ ）

<報酬> ※図書カード・クオカード等の支給、寮費・家賃の補助・減免等は、「報酬あり」にしてください。

- ・報酬なし：プログラム数（ ）
- ・報酬あり：プログラム数（ ）
- ・一部報酬あり（活動の一部のみ報酬がある場合）：プログラム数（ ）

15-③ 15-①で「a」を選択した場合、貴校として、今後ピア・サポートの取組をどのようにしていきたいですか。該当する項目を1つ選択してください。また、「b」に該当した場合には、理由を入力してください。

- a 拡充する予定
- b 縮小又は廃止する予定〔理由：（ ）〕
- c 特に変更の予定はない

15-④ 15-①で「b」を選択した場合、貴校として、今後、ピア・サポート等、学生同士で支援する制度を実施したいと思っていますか。該当する項目を1つ選択してください。

- a 実施したい
- b 考えていない

16 学生のボランティア活動に対する支援について、お答えください。

16-① 学生のボランティア活動に対する支援について、該当する項目を1つ選択してください。

- a 実施している
- b 実施していない

16-② 16-①で「a」を選択した場合、支援内容について、該当するすべての項目に○をつけてください。

- a ボランティア活動に参加する学生への修学上の配慮
- b ボランティア活動に関する授業科目の設置（単位認定）
- c ボランティア募集に関する情報収集・提供
- d ボランティア活動を希望する学生と受入れ先との調整
- e ボランティア活動に参加する学生対象の事前研修会等
- f ボランティア活動における事故に対応する保険の加入指導
- g ボランティア活動に対する経済的な支援
- h 大学等においてボランティア事業を企画・実施
- i ボランティア活動専門の部署を設置
- j ボランティア活動専任スタッフを配置
- k その他（具体的に： ）

16-③ 16-①で「a」を選択した場合、実施している分野について、該当するすべての項目に○をつけてください。

- a 国内の災害地への援助活動（災害地への物資援助などの救助活動、募金活動等）
b 地域社会活動（自治体の手伝い、消防・防災・交通安全などの活動、村・町おこし）
c 国際交流・協力活動（外国人留学生や外国人の相談相手、通訳、ホームステイなど）
d 自然・環境活動（生物・植物の保護、掃除などの環境整備、リサイクル活動など）
e 保健・医療活動（病気の人の手助け、健康を守る活動など）
f 福祉活動（お年寄りや障害のある人などを助ける活動など）
g 教育・文化・スポーツ活動（子どもの学習の面倒をみる、生涯学習活動、伝統文化の継承、博物館・美術館などでの作品説明、史跡など観光施設の説明、スポーツ教室）
h その他（具体的に： ）

- 17** 学生の課外活動、ピア・サポート、ボランティア活動に関して、課題となっていることがありましたら、該当するすべての項目に○をつけてください。

課題となっていること	課外活動	ピア・サポート	ボランティア活動
a 参加する学生の確保			
b リーダー学生の資質・研修			
c 学生への情報提供・啓発			
d 活動中の事故防止に関すること			
e 活動内容の把握に関すること			
f 活動支援のための予算の不足への経済的な支援に関すること			
g 活動のための施設、備品等の不足・老朽化等に関すること			
h 担当教職員の役割、人員体制に関すること			
i 担当以外の教職員の理解に関すること			
j 学生の自主性・自己管理と関与のバランスに関すること			
k 活動のための修学上の配慮に関すること (例：災害ボランティア、地域活動 等)			
l その他（具体的に： ）			

【V 学生相談】

本項目は、学生相談室・カウンセリングセンター・保健管理センター等で、学生の悩み等について相談・支援する活動を対象としています。

18 学生相談の内容について、お答えください。

学生相談の内容について、前回調査時（令和3年度（2021年度））と比較して、件数が増えている項目はありますか。下表の1～13の項目について、該当する記号（a～d）を1つ選択してください。

項 目	a～dから 1つ選択
1 対人関係（家族、友人、知人、異性関係）	
2 精神障害（気分障害、不安障害、統合失調症等）	
3 心理・性格（アイデンティティ、セルフコントロール等）	
4 発達障害（A S D （自閉症スペクトラム障害）、A D H D （注意欠如・多動性障害）、S L D （限局性学習障害）等）	
5 身体障害	
6 性的マイノリティ（LGBTQ、SOGI 等）	
7 修学上の問題	
8 経済的問題	
9 進路・就職	
10 ハラスメント、人権侵害、デートD V	
11 性犯罪	
12 悪徳商法、法律相談	
13 その他（具体的に： ）	

a 増えている
 b 変わらない
 c 減っている
 d 把握していない

19 学生相談に関する組織についてお答えください。

19-① 学生相談に対応する組織・人について、該当するすべての項目に○をつけてください。

- a 学生の相談に対応する独自の組織（学生相談室等）
- b 保健管理センターや保健室など
- c 学生部（課）等の事務組織
- d 学生支援センター等の総合的な組織
- e クラス担任、指導教員等の教員
- f 学生委員会等の委員会組織
- g その他（具体的に： ）

19-⑥ 学生相談に対応する組織では、個別相談以外にどのような活動がなされていますか。該当するすべての項目に○をつけてください。

- a 学生生活等に関する授業
- b 心理教育的ワークショップ
- c 自助グループの支援(当事者学生が運営するグループ。発達障害、性的マイノリティ(LGBTQ、SOGI等) など)
- d 各種グループ活動(学生相談組織が主催するグループ活動)
- e 居場所による援助活動(※)
- f スクリーニング調査
- g リーフレットの作成・配布
- h 一般教職員を対象とした学生対応等に関する研修
- i 心理的応急処置(サイコロジカル・ファースト・エイド等)
- j セルフケアに関する情報発信
- k オンラインによる学生交流活動
- l その他(具体的に:)

※談話室や懇談室等の名称で学内適応や活動の拠点として学生に居場所と交流の機会を提供するものを指します。

19-⑦ 学生相談に対応する組織と学内の他組織との連携状況について、該当するすべての項目に○をつけてください。

- a 全学的に定期的に連絡会議を行っている
- b 担当組織間で定期的に会議を行っている
- c 担当者間で連絡を取っている
- d 学生支援関係の委員会に参加している
- e 危機管理関係の委員会に参加している
- f 特に連携していない

19-⑧ 学生相談に関する組織における、カウンセラー(※)及び医師の配置状況について、該当するすべての項目に○をつけてください。また、「a」又は「b」に該当した場合には、人数を入力してください。

※ここでの「カウンセラー」とは、「公認心理師」「臨床心理士」あるいは「大学カウンセラー」(「日本学生相談学会」認定)の資格を持つものとします。

- a カウンセラーを配置している [人数: 常勤()名、非常勤()名]
- b 医師を配置している [人数: 常勤()名、非常勤()名]
- c いずれも配置していない

20 学生相談にかかわる教職員等の知識・技能の向上のため、どのような取組を実施していますか。該当するすべての項目に○をつけてください。

- a 人事考課制度や目標管理制度を導入し、人事と結びつけた能力開発を実施している
- b 学内での研修会を実施している
- c 学外での研修会に教職員を大学等の業務として派遣している
- d 学外での研修会への教職員の自主的な参加を推奨している
- e 大学等として各種資格の取得を義務付けている
- f 大学等として各種資格の取得を推奨している
- g その他(具体的に:)

21 学生相談に関する学外機関との連携状況について、該当するすべての項目に○をつけてください。

- a 医療機関、学生のかかりつけ医
- b カウンセリング機関（委託契約を結んで、学生相談業務の全部又は一部を委託している機関）
- c カウンセリング機関（委託契約は結んでいないが、必要に応じて連携している等の機関）
- d 学生の出身校
- e 地域の精神保健関係施設（精神保健支援センター、ひきこもり支援センター等）
- f 地域の就職支援施設（地域若者サポートステーション、ジョブカフェ、ハローワーク等）
- g 地域の障害者支援施設（発達障害者支援センター、障害者就業・生活支援センター、障害者就労移行支援事務所等）
- h 警察、犯罪被害者支援センター
- i 地域の消費者生活センター、国民生活センター
- j 弁護士、法テラス
- k その他（具体的に：）
- l 特に連携していない

22 学生相談に関する課題についてお答えください。

22-① 貴校における学生相談に関する今後の課題として、特に必要性が高いと思われる事項はありますか。下表のa～tの項目のうち、該当するすべての項目に○をつけてください。

22-② 今後、学生相談に関する取組を充実させていくにあたり、貴校単独では実施困難と思われる事項 がありますか。下表の a～t の項目のうち、該当するすべての項目に○をつけてください。

項 目	22-① 必要性 が高い	22-② 単独では 実施困難
a 悩みを抱えていながら相談に来ない学生への対応		
b 学生への予防教育的活動		
c 学生の保護者への対応		
d 複雑かつ多様な相談内容への対応		
e 精神的危機の状況にある学生への対応		
f 障害のある学生への対応		
g 外国人留学生向けの学生支援		
h 相談員の増員		
i 相談員の専任化		
j 相談員の専門性の向上		
k 相談員の待遇の改善		
l 相談員と教職員との連携・協働		
m 相談員や教職員に対する研修		
n 学生相談の体制・環境整備		
o 学生相談対応のためのマニュアル作成		
p 学内の他の学生支援部門との連携		
q 学外の専門機関（医療機関・学生相談機関等）との連携		
r 他大学等の先進的取組等の情報収集		
s 外国の大学等における取組の情報収集		
t その他（具体的に： ）		

【VI 成績不振・不登校・中途退学等】

23 成績不振学生、出席状況が悪い学生や不登校の学生についてお答えください。

23-① 成績不振学生として対応している学生に関して、貴校における判断の基準について、該当するすべての項目に○をつけてください。なお、判断の基準を設定していない場合には、「h 判断の基準を設定していない」に○をつけてください。

- a 一定の単位取得数を下回った
- b 試験等の成績が一定基準を下回った、特定科目で不合格と判定された
- c G P Aが一定の値を下回った
- d 授業を一定の回数、欠席した
- e 留年した
- f 個別に判断
- g その他（具体的に： ）
- h 判断の基準を設定していない

23-② 出席状況が悪い学生や不登校の学生として対応している学生に関して、貴校における判断の基準について、該当するすべての項目に○をつけてください。なお、判断の基準を設定していない場合には、「判断の基準を設定していない」に○をつけてください。

- a 履修科目登録をしていない
- b 連続して欠席した
- c 特定科目において欠席した
- d 欠席回数・割合が成績判定資格を失う水準を超えた
- e 欠席回数・割合が成績判定資格を失う水準に近づいた
- f 進級・卒業要件を充足できなかった
- g 一定期間キャンパスに来ない
- h 個別に判断
- i その他（具体的に： ）
- j 判断の基準を設定していない

- 24** 成績不振学生、出席状況が悪い学生や不登校の学生に対する取組について、該当するすべての項目を選択し、全学で統一的に実施している場合は◎、学部あるいは学科単位で独自に実施している場合は○をつけてください。

項 目	成績不振学生	出席状況が悪い学生・不登校の学生
a 早期発見のため出席確認を行っている		
b 科目担当者等と教務・学生部等／学部・学科との間で、連絡体制を構築している		
c 学生相談のカウンセラー等と教務・学生部等／学部・学科との間で、連絡体制を構築している		
d 担任もしくはゼミ・研究室の教員により面談している		
e アカデミックアドバイザー等専門職員により面談している		
f 教務・学生部等の関連部署職員により面談している		
g 初年次演習科目等の担当教員により面談している		
h スタディスキルに関する授業科目を開講している（正課内）		
i スタディスキルに関するセミナー等を開講している（正課外）		
j 学習支援センター等により多様な支援を提供している		
k 教職員に対して研修を実施している		
l 学生向けの啓発のリーフレット等を作成している		
m 保護者と連絡をとっている		
n ピア・サポートを活用している		
o 休学制度を柔軟に運用している		
p 進路変更について相談している		
q I R データを活用した修学指導体制を構築している		
r 学外の機関等と連携、ネットワークを形成している		
s その他（具体的に： ）		

- 25** 中途退学や休学・留年に係る貴校の方針・経営計画・評価指標等について、該当するすべての項目に○をつけてください。

項 目	中途退学	休学	留年
a 全学的な方針等に発生の防止が含まれている			
b 経営計画等に数値目標が設定されている			
c 発生数や率を評価指標として用いている			

成績不振・不登校・中途退学等に関する支援にあたって、課題となっていることがありましたら、該当するすべての項目に○をつけてください。

項 目	課題
a 個々の学生へのサポート・ニーズの把握について	
b 休学率を減少させる方策について	
c 中途退学率を減少させる方策について	
d 休学した学生の復学支援について	
e 問題学生や要支援学生の把握について	
f 障害のある学生に対する支援について	
g 学生の基礎学力について	
h 学生のモチベーション維持・向上について	
i 学生への連絡について	
j 学生への経済的な支援について	
k 保護者との連携について	
l 学外の機関等との連携について	
m 学内における連携体制について	
n 予算や人員等、支援のための資源について	
o 提供している支援に関する、学内における周知、理解について	
p その他（具体的に： ）	

【Ⅶ 学生支援に関する学長等の考え】

貴校における学生支援の取組を俯瞰して判断いただける方（学長・校長等）のお考えについて伺います。

- 27** 学生支援の成果（好影響）として何を期待していますか。なるべく具体的にお答えください。

具体的な内容を入力してください

- 28** 学生支援を進めるうえで、どのようなことに課題を感じていますか。なるべく具体的にお答えください。（新型コロナウイルス感染症の影響による課題につきましては、**29**でお答えください。）

具体的な内容を入力してください

- 29** 新型コロナウイルス感染症の流行前と現在を比較して、学生支援の取組において新たな課題等がありますか。ある場合は、なるべく具体的にお答えください。

具体的な内容を入力してください

【Ⅷ その他】

- 30** 学生支援について、支援の効果を高めるために貴校において工夫しているまたは、特に注力している取組に関する事例がありましたら、具体的にお答えください。（複数回答可）
※今後の実地調査等の参考とさせていただきます。

領 域
a キャリア教育（インターンシップを含む）
b 就職支援
c 生活支援
d 課外活動・ボランティア活動等の支援
e ピア・サポート
f 学生相談

領 域 (a～fを入力)	事例の具体的な内容を入力してください

ご協力をいただき誠にありがとうございました。

2023 年度学生支援の取組状況に関する調査協力者会議 委員一覧

氏 名	所 属 及 び 職 名
安部 有紀子	名古屋大学 教育基盤連携本部 准教授
○沖 清豪	早稲田大学 文学学術院 教授（大学院文学研究科長）
佐藤 純	茨城県立医療大学 保健医療学部 教授
蝶 慎一	香川大学 大学教育基盤センター 准教授
寺島 瞳	東京経済大学 全学共通教育センター 准教授
橋場 論	福岡大学 教育開発支援機構 准教授
谷田川 ルミ	芝浦工業大学 工学部 教授

（五十音順・敬称略）

令和6年12月

（○：主査）

大学等における学生支援の取組状況に関する調査（令和５年度（2023 年度））結果報告

発行日 令和 7 年 1 月

発 行 独立行政法人 日本学生支援機構
学生生活部 学生支援企画課 学生支援調査係

〒135-8630 東京都江東区青海 2-2-1

TEL 03-5520-6169

URL <https://www.jasso.go.jp/>
